

『喜びの家庭となるために』 詩篇139篇 1～16節 2016.5.8(母の日礼拝説教より)

『…あなたが私の内臓を造り、母の胎のうちで私を組み立てられたからです。私は感謝します。あなたは私に、奇しいことをなさって恐ろしいほどです。』 詩篇 139:13～14

◆誰一人、自分で自分の人生を計画して産まれてきた人はいない。ある小児麻痺の青年は母親に『どうしてボクを障害者に産んだんだ』と苦悩を訴えるも母は答えられない…。人生の責任は創り主にある。ならば、この方に尋ねることなしに人生の意味は分からない。素晴らしい信仰者だったヨブやダビデでさえ、世の試練や自分の罪だけに目を向けて、神から目を離した時、自分の人生を呪うしかなかった(ヨブ 3:1、詩篇 51:5)。詩篇 139:13～14 に、あなたの人生をデザインして生み出された方の声がある。「組み立て」とは、「覆う、守る、愛する」の意。「奇しいこと」とは、「想像を超えた計画」の意。心臓が鼓動し、内臓や手足が出来、神経細胞が繋がる！胎内で神の御手が、その全てを愛こめて創りこむ。神の眼差しは肉体だけでなく、まだ一日も始まらない私の人生の全てを見通された(16 節)。

◆神は私たち(山根師)家族の 50 年を見通されていた。すでに関係崩壊していた家族…その 10 年後、長女が東京で信仰を持ち、帰省時に弟と母を教会に連れて行き、この時を待っていたかのようにまもなく3人が受洗。弟は 10 年後に献身。ますます反抗する父の救いを祈って 40 年…大病を患った父は、召される2年前には礼拝に集い、信仰をもって召天。嫁も孫も全員、クリスチャンに！神の御計画は想像をはるかに超えた慰めに満ちていた。

◆すべての家庭は神様からのもの！その祝福のモデルはイエスの姿(ルカ 2:52)。知恵がすすみ背丈も伸び(心身の成長)、神にも人にも愛された(霊的成長と社会的成熟)。神と人に愛されることが心身の祝福の土台。この家族・人生・能力…全ていただいたものとして神に感謝し、この方を信頼して共に生きる時、神にも人にも喜ばれる家庭となる。両腕と片足半分欠損したレーナ・マリヤさんが生まれた時、産科医は施設ケアを勧めるも、両親は「この子に必要なのは家族愛。神の特別な計画があつての特別な体…その目的を信じて」と。

◆創り主とそこをご計画を知る、ただ一つの方法は、祈りをもって神に近づくこと！放蕩三昧の最悪の罪を犯したアウグスチヌスを回心と神の御愛へと回復させたのは母モニカの涙の祈りだった。悲しみ絶望の中で涙し、神の最善を信じて祈りの中で私たちは「決して失望させない」との主の御声を聴き、その奇跡の現実を見る！

★真実な神への祈りを通して、愛と喜びに満ちた家庭への『劇的ピフォー・アフター』を見せていただこう！